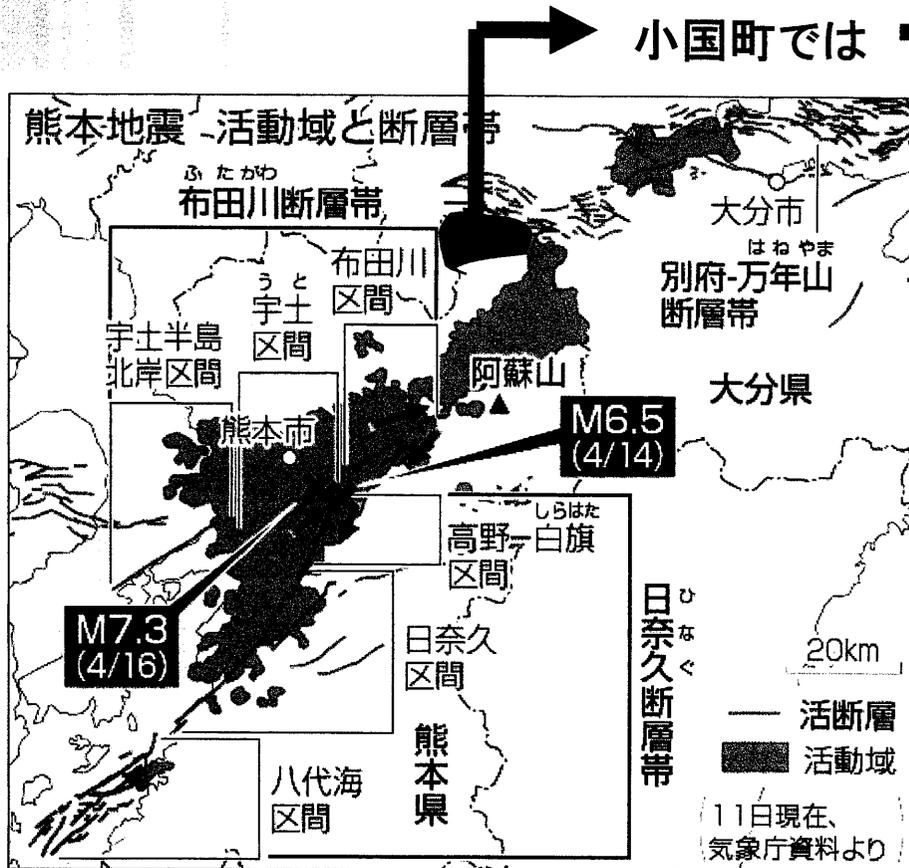


熊本地震の防災振り返り（改善点）

【小国町福祉課・地域包括支援センター】



1 前震

- ・発生日時:平成28年4月14日 21:26
- ・震度:震度3
(県内最大は益城町の震度7)
- ・震源の深さ:11km
- ・マグニチュード:6.5

2 本震

- ・発生日時:平成28年4月16日 01:25
- ・震度:震度5強
(県内最大は西原村及び益城町の震度7)
- ・震源の深さ:12km
- ・マグニチュード:7.3

平成29年7月1日

※本資料の数値等は全て現時点のもの

この他、小国町では震度4を3回観測

■災害時避難行動要支援者登録

- 小国町民生委員の協力
- H28年度205名が481名
2.3倍に増加
- 住居の間取り、寝室の場所確認
- 関係機関との情報共有
- 定期的見直し(新システム導入)

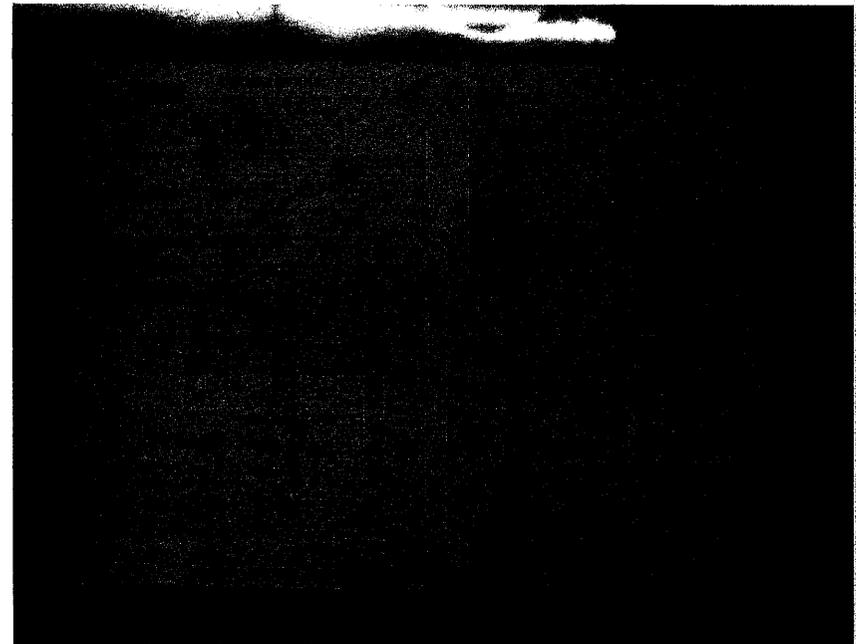
■緊急時の聞き取りシート作成

- 医療介護施設を対象に作成
- 熊本地震の際に不手際があった
- 確認漏れ・重複確認の防止
- 統一した聞き取りができる
(施設及び人的被害状況・規模)

■福祉避難所への備品購入

- 今回初めて開設して出てきた課題から
- 簡易ベット(各施設2台)
- パルスオキシメーター(1台)

■災害時避難行動要支援者登録データ



■小国町防災計画の見直し

- 熊本地震を踏まえ見直し
- 避難勧告等の表現変更
避難準備情報⇒避難準備高齢者等避難開始
避難指示⇒避難指示緊急
- 応援受援体制・車中避難者対応

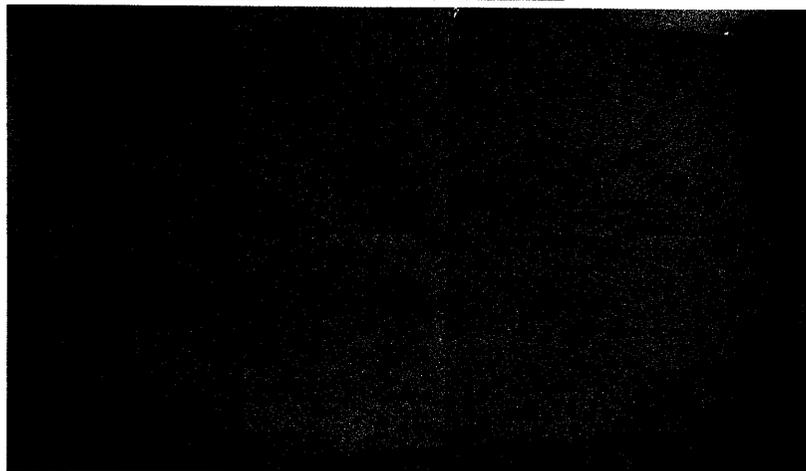
■小国郷災害保健医療体制整備

- 阿蘇保健所・公立病院・小国町南小国町で協議
- 阿蘇北部地区災害保健医療復興連絡会議設置要綱策定
- 連絡会議場所の選定
- 今後も継続協議

■小国町復興まちづくり計画策定

- 現在策定中
- 庁舎内PJチーム編成
- 有識者による協議会設置予定
- 防災マップ見直し(準備中)

■現在の小国町防災マップ



南小国町地域包括支援センター・南小国町社会福祉協議会 防災の振り返り

熊本地震～現在までの振り返り(南小国町社会福祉協議会)

●災害時におけるボランティアマネジメント

- ・熊本地震による災害ボランティアセンター設置社協への職員派遣

南阿蘇村： 9日間 11名

西原村： 40日間 51名

阿蘇市： 3日間 3名

- ・熊本地震町内ボランティア活動への参加（申込者数60名 延べ122名活動）

—主な活動内容— 避難所受付・清掃、給水、災害ゴミ受付

○熊本地震復興支援に伴う情報共有会議：阿蘇ブロック社会福祉協議会連合会（平成28年9月23日）

○災害ボランティアセンター設置模擬訓練(晴ればれりんどうボランティアの日)(平成28年9月27日)

○災害時炊き出し訓練（ボランティア連絡協議会）(平成29年2月26日)

○ふくし座談会等の開催

開催数 5回開催（参加者 延べ170名参加）

開催地区 市原町（上町、本町、下町）、中中原常会、馬場自治会、TST（田中、千光寺、竹の熊）

内容 防災福祉見守りマップづくり、やまびこネットワーク見守り会議

○福祉避難所マニュアル作成⇒行政と協議し、県下で統一したマニュアルを使用することとなる。

熊本地震～現在までの振り返り(南小国町地域包括支援センター)

○「災害時対応シート」の見直し⇒災害発生時と発生後の定期的な状況(身心状態、ニーズ)の把握

→発生時のニーズと時間が経過した後のニーズの変化

→地震から少しずつ身体的、精神的に不調が出始める方がおられた

○やまびこ見守りマップでの要援護者、高齢者のみ世帯、一人暮らし高齢者世帯の更新及び再確認

熊本地震から1年・・・ 南小国町で取り組んだこと

H. 28. 6. 6

熊本地震に関する状況報告及び防災体制説明会

H. 29. 6. 2 南小国町防災会議

- ①避難計画の見直し
- ②災害応急対策計画の見直し
- ③町職員配置体制の見直し

H. 29. 6. 8

住民自治組織説明会及び自主防災組織活動報告会

熊本地震から1年・・・ 福祉課で取り組んだこと

避難行動要支援者名簿及び個別計画の見直し

H.28.6 自主防災組織に説明会

H.29.2 個別計画相談会

福祉避難所の見直し

- ①備品等のチェック
- ②指定避難所(役場ホール)に、福祉非難
スペースを確保
- ③新たな福祉避難所を指定



防災への取り組みについて

- 2016.07.13 今後の気象状況について FAX・メーリングリストで配信
- 2016.11.17 カセットボンベ式発電機の購入
- 2016.11.09 阿蘇山が噴火したという想定での FAX・メーリングリストでの情報伝達訓練
- 2016.11.10 冬期道路凍結時、熊本市内方面へのアクセス不可の場合における大分・宮崎ルートの確保
- 2016.12.08 簡便食・保存食について試食会への参加
- 2016.12.15 積雪によるグリーンロードの通行規制について FAX・メーリングリストで配信
- 2016.12.19 「防災ベスト、作業服(上下)、ヘルメット、LED ネックライト」を全会員へ配布
- 2017.02.20 停電について FAX・メーリングリストで配信
- 2017.03.02 平成 28 年度 第 2 回 阿蘇地域保健医療推進協議会救急医療専門部会
- 2017.03.14 第 8 回 阿蘇圏域災害保健医療対策連絡会議

- 2017.04.12 光化学スモッグ注意報発令についての情報伝達訓練
- 2017.04.20 熊本空港緊急計画連絡協議会
- 2017.04.26 弾道ミサイル落下時の行動等について FAX・メーリングリストで配信
- 2017.05.16 平成 29 年度 阿蘇地方災害対策会議及び阿蘇水防区水防連絡協議会
- 2017.06.13 第 1 回 阿蘇圏域災害保健医療連絡会議
- 2017.06.28 第 59 回 熊本県救急教育セミナー
- 2017.07.04 台風 3 号による建物・設備等の被害状況調査
- 2017.07.11 EMIS(広域災害・救急医療情報システム)研修会
- 2017.07.18 平成 29 年度 第 1 回 阿蘇地域保健医療推進協議会救急医療専門部会

災害時の公立病院の全体的な課題

- 非常時のスタッフ参集条件の設定
- 非常時の指揮系統・役割分担の明確化
- 医師が小国にいないときの対応
- 非常時の連絡手段の確保
LINEグループの作成（部署ごとに）
- 非常時の職員の安否確認
- 非常時の物品・備蓄品の管理
- 非常時の職員のメンタルケア
- 電気と水がないと検査ができない
- 放射線機器はほとんどが200V(非常電源不可)
- 病院が崩落の危に陥った時どうするか。
入院患者をどこに避難させるか
- 町内ハザードマップの確認
- 物資（薬・食料・おむつなど）が熊本から
入ってこない時の別ルートの確保
- 救護所が必要になった場合の運営
- 様々なレベル（院内・老健・小国郷内・
県内・県外）の連携の確認

これらの様々な課題を解決するために、各部署の選抜スタッフによる災害対策委員会が発足し、課題解決にあたっている。

小国公立病院 熊本地震後1年

次の災害への備え・地震後にみなおしたこと

- 災害対策への対応策を病院として検討していく為に、災害対策委員会を設立し、1年ほどかけて、自然災害対策マニュアルを作成予定
- 火災時の避難訓練を定例化し、火災対策のマニュアル化を目指す。
- 災害対策集会を行い、地震後の各部署の動きを確認し、問題点を共有。
- 小国公立病院内の熊本地震備忘録を作成
- 災害派遣ナース研修に看護師5名参加
- 消防署との連携を強化するために、防災講習会を開催
- 避難所が開く様な災害時には、ホワイトボードで情報共有をする様になった。
(豪雨避難の際も使用)
- 災害時の備蓄の在庫確認 (事務局により確認済)
- 災害時の設備のチェックリスト

医療機器・医療ガス・自家発電・エレベーター・ナースコール・
電子カルテ・インターネット

災害時の公立病院の課題

(外来編)

- 人手不足の際の外来業務のレギュレーション
- 災害時に多くの患者を受け入れる為のシステムと導線
- 多数の傷病者が出た際の患者情報の共有方法
- 災害時の社会的入院の受け入れ判断を誰がするか？
- 福祉避難所の存在を知識として持っておく
- 電子カルテが運用できない時の診療のマニュアル

(病棟編)

- スタッフが少ない時間帯で、患者さんを避難させなければならない事になったら、どうするか？
- 避難経路の体系化 ※火災時も同様
- 避難必要時の応援要請をどこにするのか？消防団に協力要請可能？
- 一斉連絡システムの確立
(LINE メーリングリストなど)
- 水の確保 (バケツ・ポリ容器などに)
- 停電時の対応

これらの様々な課題を解決するために、各部署の選抜スタッフによる災害対策委員会が発足し、課題解決にあたっている。

ライフライン

- ・電気 ……発電機があっても燃料の確保が…、
 - 長期のガソリン保管…ガソリンの劣化・危険性 GS停電で混雑 被災地から避難
 - …電池…ストック分から使用・順次補充 充電用ニッケル水素電池
 - …車両用12V(24V)…インバーターの利用でAC電源 シガーソケットからUSB・DC電源
 - …蓄電池…電気自動車 太陽光・風力発電の蓄電(蓄電バッテリー)
- ・ガス ……カセットボンベ…カセットコンロ・カセットストーブ (カセットボンベ用発電機)…保存・価格(コスト)
- ・水 ……ペットボトル・保存期間
 - …井戸…電動ポンプ…手押しポンプ…緊急稼働…さび等…水質検査

救急機材

- ・救出・救急
 - ・応急処置機材…消毒期限…薬剤等使用期限
 - ・酸素ボンベ…(加湿器)レギュレーター
 - ・AED…電池・パッド

避難

- ・搬送 ……車いす…メンテナンス…作動確認・タイヤ確認…ノーパンクタイヤ
- ・移動 ……車両等…ガソリン・燃料…フラットシート…軽トラ(ハウス)

災害・緊急時の機材が確保されていることは確認されていても
それを活用するための、付属の機材の維持・管理(メンテナンス)
が十分に行われていないと、いざとなったときに十分に役に立たない。

！！メンテナンス！！… (ウィキペディア) … 「整備・維持・保守・点検・手入れ」

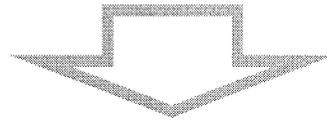
小国調剤薬局 防災振り返り

- 通信手段の確保
 - 携帯電話用予備バッテリーの準備
- 遠隔通勤者の通勤
 - 非常時連絡網については電話よりも連絡のつきやすいLINEを使用することとしてグループ作成
- 非常用電源の確保
 - 発電機の購入検討中
- 薬品棚保管状況の一部見直し・薬品在庫量の下限の引上げ

小国町社会福祉協議会

熊本地震備忘録<より深く考えておく必要があること>

- 福祉避難所の開設準備
- 職員の初動体制
- 災害ボランティアセンター設置準備
- 災害時を意識したネットワークづくり



1年の振り返り

被災市町村の災害ボランティアセンターへ職員を派遣

西原村災害ボランティアセンター

阿蘇ブロック社協連合会による復興支援会議等の開催

住民福祉座談会の開催

防災マップ

災害時の避難体制

平時からの見守りや支え合い

福祉避難所

南小国町と協定 ⇒ サポートセンター悠愛福祉避難所

備蓄食料の保存期間の確認と更新

小国町より簡易ベッドを配備

おぐに老人保健施設震災後の振り返り

- ・熊本震災を語り合うシンポジウム参加
- ・熊本県栄養士会災害支援チームとKDA-DAT スタッフ育成セミナー参加
- ・熊本災害派遣福祉チーム（熊本 DCAT）への登録（5名）

備品

- ・ランタン3台購入（スタッフの両手が空き介助できるように）
- ・懐中電気追加して3本購入
- ・水を入れる容器の購入
- ・トランシーバー3台購入
- ・ショルダーメガホン1台購入
- ・食事用備品の不足分購入

県から福祉用具希望調査があり要望を提出しいただいた。

- ・立ち上がりバー2台
- ・車椅子用スロープ1台
- ・シルバーカー1台
- ・移乗マット1枚

取り組み

- ・災害時は空いているベッド全てをベッドメイキングし受け入れ体制を整える。
- ・緊急ショート要望あった時は、スタッフより相談員に連絡し受け入れ体制を整える。
- ・遠方に住むご家族への連絡
- ・連絡網の作成
- ・栄養課との連携
- ・酸素、吸引器必要な方の安全確保（病院へ移動）
- ・送迎車はガソリン半分になったら満タンにする

その他

小国郷内集団給食施設の食中毒、災害発生時の援助システムのマニュアルの見直し
(9施設の栄養士間での連携、備蓄品の相互援助)

福祉避難所の震災後の振り返り

- ・ 役場から福祉避難の開設依頼が来たら、老健玄関外の電気センサーを午後 6 時～午前 5 時にセットし点灯させる。
- ・ 施設スタッフ間で、福祉避難所の役割と内容を理解する（勉強会）
- ・ チーム編成を行い体制と整える（検討中）
- ・ 福祉避難者に対する食事は、老健の食事ではなく、福祉避難所の備蓄保存食を提供する。

備品（地震後に役場より補充あり）

- ・ 収納式リクライニングベッド 2 台
- ・ 防水シート 2 枚
- ・ パルスオキシメーター 1 個

「防災の振り返り」平成29年7月12日現在

特別養護老人ホーム悠清苑
福寿苑グループホーム

- ・防災計画の立て直しを現在している所です。(地震・水害・不審者対応)
- ・地震の際は、安全である事を確認し安全であれば動かず、ご利用者に声掛けを行い混乱しない様に対応することを確認しました。
- ・遠距離のご家族に対してはこちらから連絡を行うようにしています。
- ・震災用のヘルメットや懐中電灯や家具の突っ張りポールやキャスターを止める器の震災用の備品を購入しました。
- ・備蓄用の食料品についてですが現在100人分2日分の食料の確保をしていますが水が不足しています。本来なら2ℓの水6本入100箱欲しい所ですが置き場所の確保が出来ていないので20箱しか確保できていません。⇒ 置き場所を検討中
- ・南小国町の福祉避難所の指定を受けていますが『福祉避難所』の内容等が町民に周知されていないので役場の方に伝えています。

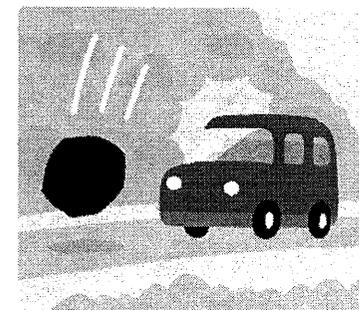
熊本地震から一年 防災の振り返りと今後の課題

リハセンターみどりの里



* 介護支援センター・ヘルパーステーション

日頃の訪問時に地形の異常や訪問先までのルート確認し(二か所)
緊急時にでも訪問できるようにしている。
訪問車のガソリンチェックをしメモリ半分で満タンに



* デイサービス

送迎ルートの危険箇所把握と避難所の確認を情報シートに追加
独居や高齢者だけで生活をされている方と家族と生活されている方を分けるようにし、
連絡しやすくした。職員間で福祉避難所の周知徹底

* 訪問看護ステーション

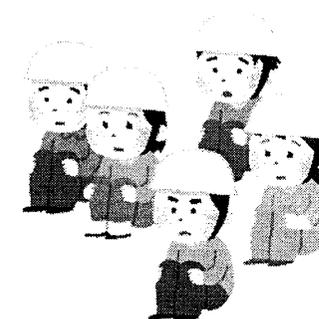
訪問時にルートの確認と異常の発見と観察を行う。
訪問看護連絡協議会でシュミレーションを実施し、必要物品や人材を依頼すればできる
限り確保できるようにした。ガソリンは半分になった時点で満タンにするようにした。

* 栄養課

破損した調味料はコンテナにしきりを作り入れるようにした。
備蓄品の賞味期限を守り使用し、食べた感想をうかがい次の備蓄品の参考にしている。

* 朝日が丘(サ高住)・みどりの里(有料老人ホーム)

連日の環境整備時に危険がないかの確認。
(高い所に物がなにか、液体の物がなにかなど。)
緊急連絡先をステーション内に設置。誰でも確認できるようにした。



震災後 1 年(振り返り)

グループホームなごみ、森園

1. 県、地域の研修に参加し情報を得る

- ・平成 28 年 10 月 30 日 馬場自主防災 防災訓練 (熊本地震からの教訓とこれからの地域づくり) グループホーム森園参加
- ・平成 29 年 2 月 27 日 熊本県土木部河川港湾局主催 水害土砂災害に関する要配慮者利用施設の管理者向け説明会 参加

2. グループホームなごみ、森園取り組み

- ・ハザードマップ使用による防災の勉強会
- ・スタッフの役割、連絡網作成
- ・ご利用者情報の集約 (冊子作成)
- ・備蓄のチェック表作成 (不足分の調整、発電機の購入) ・水、食料品、オムツ等の生活必需品の確保など
- ・森園 福祉避難所としての役割の周知 (なごみの職員にも周知)
- ・被災時の人員確保 (ボランティア数名確保)
- ・災害の予測されるときに生活用水等を、スタッフによる準備の徹底 (スタッフの意識の低下の予防)
- ・防災気象情報の入手(パソコン、携帯の取り組み)

いつも大変お世話になっております。「防災振り返り」の件です。

縁がわ小国では、ミーティングを行いました。職員の心構えを確認しなおしました。

職員はグループラインで情報共有する事になり、何時でも行動できる様に職員用の長靴、手袋、懐中電灯をストックしました。

在宅の利用者を安全に避難できる様に車椅子、スロープ、移乗板、避難時用に簡易の

ベッドとしてソファベッド、折りたたみベッド、毛布、非常用食料品を準備しまし

た。まだ、万全ではありませんが少しずつ揃えたいと思います。

遅くなって申し訳ありませんがよろしくお願い致します。

縁がわ小国 高野

熊本地震から1年間の取り組み

「災害に備え 見直した事項」

- ※ 備蓄品の増量（缶詰等の長期保存食品・非常時の食事メニュー検討）
常温非常食と飲料水
加工済み冷凍食品（長期保存）
日用品・紙おむつ等

- ※ 在宅酸素利用者のために 長時間停電時の対応を検討
在宅酸素会社と緊急時の対応について確認
携帯酸素の予備本数を確保
発電機と燃料の常備

- ※ 職員の緊急時対応を再確認
職員連絡網
事業所への道路通行が困難な場合の迂回路

平成29年7月 ふれあい館 柿の木の家

防災の振り返り

【主な改善内容】

- ・福祉対象者用(主に利用者)の備蓄種類と数量の見直し
- ・大規模災害発生時のマニュアル作成
- ・事業所内における設備等の耐震補強

【工夫内容】

- ・小国郷安心ネットワークのメーリングリスト活用による情報共有化

「防災の振り返り」

ケアホーム ネオ

震災から学んだ事

地震当時

- ・施設では食器棚の倒壊、断水、停電の被害だけでした。(人的被害なし)

震災からの改善点

- ・備蓄品の保管(1週間分程度)
- ・防災訓練の強化
- ・災害発生時のマニュアル作成
- ・食器棚、家具家電の耐震補強

まだまだ、改善の余地はあると思いますので、他の事業所案を取り入れて、より良いものにしていきたいと思います。

大分・福岡で水害被害に遭われた方々、謹んでお見舞い申し上げます。

以上で、ケアホームネオの発表を終わります。御静聴有難うございました。

防災を振り返り

昨年の地震で瓦が大きく割れ雨漏り等の被災がありました。また、裏山が大きく地割れしてがけ崩れの恐れがありました。幸いに人的な被害はありませんでした。

① (被害) 瓦が割れて雨漏りした。

(対策) 大工さんに速攻ブルーシートを貼ってもらい天気の回復を待ち、瓦からスレートに変えて地震や台風が来ても飛ばされないものにした。

② (被害) 裏山が大きく地割れした。

(対策) 役場に速攻連絡して崩れないように対策をお願いした。役場より木の伐採と地割れに水が入らないようにブルーシートを張っていただいた。その後シートが破けたが張り直しは出来ないと言われた。困っている。

今後の課題

介護度のある方たちを避難所に連れて行き見守るのは無理だと思われる。できれば病院の空きベットを利用するとか、旧小学校にベットを入れて見守ることが出来るような支援体制を執れないか検討していただきたい。今の施設でライフラインが確保できれば一番良い。生活環境を変えたくない。

以上が震災にあつての振り返りです。

最後に管理者として皆様にご報告があります。

わが社の職員及び家族の方々と入所者様のご家族様が震災後即座に駆けつけて下さり後かたづけや復旧に尽力していただきました。本当にありがたかったです。その後変わらずに運営できているのも皆様のお陰です。この書面を持ちまして改めてお礼申し上げます。

熊本地震後の振り返り

熊本県阿蘇保健所

H29年度の保健所の取組み

- ①阿蘇圏域災害保健医療連絡会議の開催(年4回)
- ②全職員対象の健康危機管理研修
 - ・ アクションカードを用いた初動体制の演習等
- ③医療機関対象の「EMIS研修会」の開催
- ④阿蘇地域災害保健医療従事者研修会(9/27)
 - ・ 災害拠点病院の役割、災害医療コーディネーターについて等
- ⑤阿蘇圏域災害保健医療復興連絡会議(ADRO)設置要綱の制定
 - ・ 小国地域災害時拠点病院:小国公立病院
- ⑥その他
 - ・ 被災市村聞き取り調査、自衛隊へリ要請の調整